



県議会生活福祉保健委員会で

日本共産党の辻つねお議員

6月10日、県議会生活福祉保健委員会で日本共産党の辻つねお議員は、「乳幼児医療費制度」と「社会福祉法人・戸河内松信会」の所在不明金問題について質疑。
また6月18日は、付託議案の「指定管理者制度」について、請願の「乳幼児医療費無料制度の拡充」（継続審査中）・「こども病院建設」について、一般所管事項の「社会福祉法人適正化検討委員会設置」について、それぞれ質疑を行いました。

辻議員は、「こども病院建設の請願」について、賛成意見を次のとおり述べました。

子ども中心のチーム医療で大きな成果

6月8日、宮城県立こども病院に調査に行ってきました。昨年11月に60%、124床でオープンしました。外観、中の施設とも、子どもを中心にした総合病院としてつくられています。病院のスローガンは、「すべての子どもに命の輝きを」。

驚いたのは、「総合病院の中の小児科」、「病院がこども病院に変わっていった」ということではなく、子どもを中心として先生方が集まられているということです。診療科はほぼそろい、チーム医療で、非常に大きな効果を発揮しています。小児科の先生方が胸を張って治療にあたられています。それがまた、小児科医の養成にもつながっていくことでした。

子どもの恐怖心を取り除くという、チルドレンライフスペシヤリストも配置しています。子どもが手術を非常に怖がるが、事前にその方がつきつきりで精神的なケアもするので、子どもがニコニコして手術室に入るし、笑顔で退院しています。

中国地方の中枢拠点として

山形県からも議会が視察に来ています。東北地方には、こういう独立型の子ども病院がありません。総合的な子ども病院が、まさに東北地方の一つの大きな拠点になっています。宮城県の活性化にも、県民への希望を与えるような拠点にもなっています。医療、スタッフの確保、育成に、大きくつながっています。

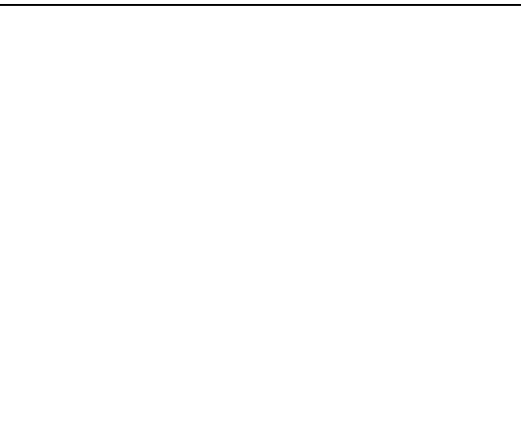
中国地方に、そのような子ども病院がないというのは、本当に情けない話です。広島県も、少子対策に重点をおくのであれば、子ども病院建設の方向を示して（いくべきではないかと思えます）。さらに、中国（地方）の中枢拠点とするのであれば、福祉、医療の面での先進的な病院をつくっていくべきではないかと思えます。

財政が厳しいのはどこも同じですが、それは、歳出、あるいは総合的な施策を勘案していくなかで、財源は捻出できると思います。事業費は、総設備を入れて156億円ぐらいですが、運営に当たっては公設民営方式を採用して、病院経営で実績を上げている法人がかかわっているという点でも、財政的にも負担をかけないようにということで対応されています。ぜひ請願

辻議員は、6月8日、宮城県立こども病院を視察しました。浅野知事が、こども病院は「未来への投資」と、建設に踏み切ったことなどを紹介しました。



屋上には、院内学級や庭園がある。



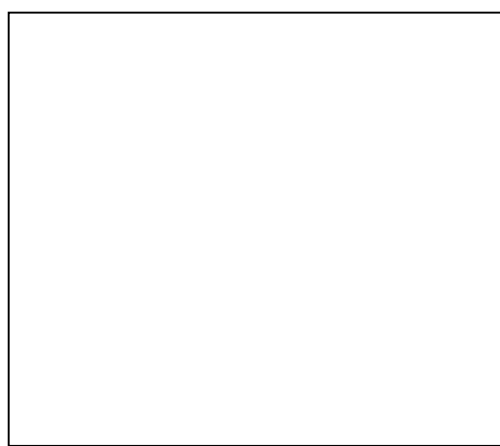
全病室が個室で、角の部屋になるよう設計されている。付き添い用ベッドなどの設備も整っており、ゆったりとした部屋のづくり。



エレベータは円筒型で総ガラス、カラフルな棒飴の形をした柱がついており、天井は星のライトがついている。



一階の受付・会計・くすりなどの窓口付近。真ん中に観葉植物や人工のせせらぎがある。



宮城県立こども病院の入り口、後ろが病院の建物。山に囲まれた静かな場所にある。全病室に明かりが射し込むよう設計が施されている。

日本共産党 県議会ニュース
2004年8月 9
日本共産党広島県議会議員
・fax 082(228)6577 ホームページ http://tsuneko.jp/